



平成 22 年 1 月 26 日

各 位

会社名 株式会社メッツ
代表者名 代表取締役社長 山口 雅幸
(コード番号 4744 東証マザーズ)
問合せ先 業務管理部長 中村 直樹
(連絡先 03-5771-4188)
<http://www.metscorp.co.jp/>

たな卸資産評価損・減損損失および平成 22 年 3 月期業績予想 ならびに配当予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 3 月期第 3 四半期におきまして、たな卸資産評価損および減損損失を計上し、その結果平成 21 年 4 月 1 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の通期業績予想ならびに平成 21 年 10 月 22 日に公表いたしました配当予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. たな卸資産評価損

当社が属する不動産業界においては、依然として厳しい経済環境を背景として不動産の流動性が低下している状況にあります。また、金融市場の信用収縮により資金調達環境が悪化し、業界全体の市況も極めて不透明であり、本格的な回復までにはまだ時間がかかるものと思われます。

このような状況の中、当社は国内外問わず有力な事業法人や不動産投資会社などと従前より交渉を重ね、物件売却に努めてまいりましたが、未だ売却には至っておりません。地価の下落に伴いその影響が不動産マーケットの価格にも反映されていることから、当社が保有するたな卸資産（販売用不動産）について、現状の適正価格を「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用に伴い、評価の見直しを行いました。

その結果、平成 22 年 3 月期第 3 四半期におきまして、たな卸資産評価損を売上原価に計上することといたしました。

たな卸資産評価損計上額 4,682,625 千円

2. 減損損失

地価の下落に伴いその影響が不動産マーケットの価格にも反映されていることから、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴い評価の見直しを行い、保有する固定資産の内時価が下落している資産につき、減損損失を計上することといたしました。

減損損失計上額 239,156 千円

(内訳) 土地 209,034 千円

建物 30,121 千円

3. 平成 22 年 3 月期 業績予想の修正について

(1) 通期業績予想数値 の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1 株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	400	1	△110	△120	△246.00
今回修正予想(B)	330	△4,740	△4,850	△5,100	△10,455.10
増減額(B-A)	△70	△4,741	△4,740	△4,980	—
増減率(%)	△17.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	380	△145	△228	△286	△586.81

(2) 業績予想修正の理由

依然として続く不動産市況の低迷には、いまだ回復の兆しが見られない状況であります。当社販売用不動産はそうした中でも、引き合いを有するものであり、引き続き交渉を続けておりますが、昨今のマーケットの実勢を踏まえ、慎重な評価を期するべく前述のとおり当第 3 四半期で販売用不動産の評価損を計上しました。また保有固定資産の減損も計上し、大幅な業績予想の修正となりました。

なお、当社が前回平成21年4月1日公表いたしました期業績予想数値および前述の通期業績予想の修正値は販売用不動産が売却に至らなかった場合を想定し算出しておりますので、販売用不動産が売却に至った場合は適時開示をいたします。

4. 平成 22 年 3 月期 配当予想の修正について

(1) 修正の内容

(基準日)	1 株当たり配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	年間
前回発表予想 (平成 21 年 10 月 22 日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 未定	円 銭 未定
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—	—	—
(ご参考) 前期(平成 21 年 3 月期) 実績	—	300.00	—	0.00	300.00

(注) 当社は、定款において第 2 四半期末日及び期末日を配当基準日と定めております。

(2) 配当予想修正の理由

当社は株主各位に対する利益還元を経営の重要な課題の一つとして位置づけ、配当につきましては、中期的な業績動向を考慮に入れながら、各期の業績に対応して配当額を決定し、安定的に継続していくことを目標としております。

しかしながら、上記業績予想の修正のとおり通期で大幅な赤字となる見込みであり、今後も引き続き厳しい経営環境が予想されること等を総合的に勘案した結果、誠に遺憾ながら平成 22 年 3 月期の配当を見送らせていただくことといたしました。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、業績の回復を最優先課題として取り組んでまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

※注意事項

本リリースで述べました今期業績の推移見通しにつきましては、発表日時において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因により、異なる可能性があります。

以上